

様式 4

<p style="text-align: center;">令和 6 年度第 6 回 富士見市社会教育委員会議 議事録</p>						
日 時	令和 6 年 1 1 月 2 6 日 (火)		開会	午後 7 時 0 0 分		
			閉会	午後 9 時 0 0 分		
場 所	富士見市立中央図書館 2 階 視聴覚ホール					
出席者	委 員	本田議長	渡邊副議長□	國府田委員	内海委員	秋元委員
		○	○	○	○	欠
		小栗委員	関野委員	戸田委員	八木橋委員	深瀬委員
		○	○	○	○	○
	事 務 局	生涯学習課 主任				
公 開 ・ 非 公 開	公開 (傍聴者 0 人)					
議 題	<p>1 あいさつ</p> <p>2 協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習ガイドについて <p>3 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各会議への参加報告 ・生涯学習課より 					

議 事 内 容

1 あいさつ

2 協議事項

・生涯学習ガイドについて

【議 長】 生涯学習ガイドを知ってもらい、そこから生涯学習活動につなげてもらうための方策を話し合ってきている。今回は、生涯学習ガイドの改定案について事前に考えてきていただいております。各委員の意見をまとめたものを資料として配布している。まず、冊子の名称やガイドで使われている用語の変更案について。最終的に1個に絞るという訳ではなく、案の提示ができればよいと考えている。それでは、それぞれ出していただいた意見について説明をいただきたい。

【委 員】 今の生涯学習ガイドという名称には硬い印象を持った。雰囲気や和らげるために仮名表記にし、「たのしく」「つながる」という言葉を入れた。今の生涯学習ガイドという名称は、サブタイトルとしてつけておくのが良いかと考えた。

【委 員】 私は、名称は変えなくても良いのではないかと考えている。市として発行するものなので、タイトルから想起させるものが人によって異なってしまうような名称よりも、生涯学習のガイドブックなのだとも明らかに認知される名称の方が適切なのではないかと考えた。また受け手側から考えた時に、生涯学習そのものに関心がないのであれば、タイトルを変えたところで手に取ってはもらえないのではないかと考えた。ただ、あえて名称を変更するのであれば、「生涯学習コンパス」という名称はどうかと考えた。方向性を示すツールとして、これからどんな方向に向かっていけるのかを知る助けになるものだと想起させることができるのではないかと考えた。また生涯学習ガイドという名称を残し、副題をつけるという方法も考えられる。

【議 長】 私も生涯学習ガイドという名称はどこかに載せておいた方がよいと考えたので、副題で残した。機能・用途をタイトルで正確にいう必要はないと考えた。

【委 員】 そもそも生涯学習という言葉が分かりにくいのではと考え、「生き生き、学び」情報誌とした。

【議 長】 意味するところを伝える一般的な言葉にする、という意見が多いか。

【委 員】 表記方法を漢字から平仮名や片仮名に変えるだけでも、親しみやすさは上がるのではないかと考えた。

【委 員】 学ぶ、学習、といった言葉は、人によってはネガティブなイメージを持つ。なにかを始めるということが尊いのであり、その一歩を踏み出す人を応援している、なにかを始めるという気持ちを尊重する、そういう姿勢を示せると良いのではないかと考えた。始めることによって誰かとつながっていくし、そのつながりが加速していけば、まちも変わる。そういうイメージを込めていくつか意見を出した。

- 【議長】 ここまでは名称の話。既存の名称を残すか、残さないか。また新しい名称にする場合は、「つながる」「はじめる」「たのしい」などがキーワードになるかと思う。柔らかい言葉に置き換えるという意見が多い。ガイド内で使われている言葉の見直しについては、事業という言葉プログラムという言葉にしたらどうか、という意見が出ている。私も事業という言葉は一般向けではなく、講座・イベントとの違いが分かりにくいため、一緒にしたらどうかと考えた。では続いて2つ目の設問、分類や整理の仕方について意見を伺っていききたい。
- 【委員】 今回の生涯学習ガイドは、最後のページに生涯学習関連施設を載せている。また最初に示されている施設が市役所になっているが、これは考え直した方が良いのではないかと。また、生涯学習ガイドの最初のページには、富士見市の生涯学習の見取り図のようなものが載せられると良いのではないかと。見開きを使って、左側のページに生涯学習を推進している施設を載せる。右側のページでは、生涯学習ガイドそのものの説明や、ウェブの案内をする。また今は簡易製本をしているが、興味を持ってもらうには、きちんと製本することも必要ではないだろうか。また文字のポイントも統一されていないので、そろえた方が良い。外観を向上させないと、手に取ってもらえないのではないかと。
- 【委員】 対象向けに目次を立てているが、これは対象を限定することになってしまいうし、子どもや高齢者に偏っている印象を受ける。例えばセパタクローをやってみたいと思っても、小学生向けに分類されると、大人は参加できないと感じてしまう。対象を限定する意味もあるとは思いますが、多くの人に参加してもらう可能性を摘み取ってしまうことになるのではないかと。また講座と書いてあっても、社会科展などが挙げられており、分類に違和感がある。事業についても補足説明があった方がよいのではないかと。
- 【委員】 2つの意見を出した。サークル・団体情報に焦点を当てた意見になっていることはご了承いただきたい。1つ目、見つけやすさを考えると、みんながイメージしやすい、所謂よくある分類法を採用することが大事なのではないかと。団体がどのような活動をしているのか、テーマ別だと分かりやすいのではないかと。また、なにかを試してみたいという時に、時間帯や場所、団体の活動方針は重要な情報になってくるのではないかと。活動内容が分かれば、覗いてみようと思いやすくなるのではないかと。2つ目、既存の団体の状態が分かるというのは、入る側にとっても、迎える側にとっても、大事な情報ではないかと。どんな人でも大歓迎、という団体もあれば、本音では初級者はあまり受け入れを想定していないという団体もあると思う。そういった実態や本音など、最初から示しておいた方が、ミスマッチを避けられるのではないかと。規模の大小や、関わっている人たちの参加年数などからも団体の雰囲気分かると思うので、そういった情報も載せられると良いのではないかと。

- 【議 長】 「生涯学習関連施設」と「サークル・団体情報」については今のままでも良いと思う。ただ、詳細な情報が掲載されている場所を示した方が良いと考えた。また「一般向け」と「育児・親子・青少年向け」が分けられている意図が分からなかったので、そこは統合しても良いのではないか。
- 【委 員】 「サークル・団体情報」の場所に、市のホームページに掲載されている「公の施設利用団体・サークル一覧」も一緒に掲載してはどうか。また、「事業・講座等」や「サークル団体情報」について、費用も掲載してあるとより分かりやすいのではないか。
- 【議 長】 欠席されている委員からも意見をいただいている。利用者の声を取り上げながら、一覧に目を通したくなるようなページを用意するという意見。内容の枠について、もっとニーズを言語化した文章にしたいとの意見。目次を時間軸で作るという意見。目的別に情報を整理するという意見。場所別で整理するという意見。
- 【委 員】 私は富士見市のホームページから閲覧することに限定して考えた。市のホームページが使いやすくなっている。サイト内検索も便利。とはいえサイト内検索の使い方を知らない方もいる。みなさんスマホを持っているので、分かりやすい案内があったら良いのではないか。また今はPDFで掲載されている。必要な部分だけをダウンロードできるように、複数のPDFを掲載するなど、配慮があると良いと思った。
- 【議 長】 検索の仕方について、今はどこかに載っているのか。
- 【委 員】 サイト検索はホームページ上にあるので、分かっている人は使うのではないか。それがなにか分からない人に向けて、例えば単語を入力してください、など、なにか案内が一言あるだけでも違うのではないか。
- 【議 長】 次に、設問3、どんな内容・項目をどういう形で載せればよいかについても意見を伺っていきたい。
- 【委 員】 冊子体を見る人はネットを使うことができない人が多い、ということ考えると、まずは公民館を案内するのが良いと思う。富士見市が設置している公共施設があり、そこには対応する職員がいるということも簡潔に説明した方が良い。また、ウェブ上にはさらに具体的な情報があるということも簡潔に説明する必要もあると思う。冊子体の場合、いくら工夫しても順番通りにしか見ることはできず、限度がある。紙という媒体の限界を考えながら作る必要があるのではないか。
- 【委 員】 「はじめかたガイド」としてのあり方を想定し考えた。時期の欄に通年と書いてあるものが多いが、つまり詳細については広報を確認するか、担当課に問い合わせる必要があるということ。日頃から広報を確認してほしいということを書いておいても良いのではないか。また講座で始める、イベントで始める、など、始めることに注目して項目立てしてはどうか。なにかを始めることをふわっぴーが手伝ってくれるというイメージ。このガイドにはどういうことが書いてあ

るのかということ、また詳細な情報は広報なども確認する必要があるということの説明する。他人と知り合ったり、まちや人の雰囲気を感じたり、ただ参加して終わりではなく、参加するにあたって持ってほしい心持ちなどのポイントが書いてあると良いのではないか。公民館ではサークルや団体などの公開月間を10月に設けている。そういったこともガイドに書いてあると、多くの人に興味を持ってもらえるのではないか。居場所づくりとしてのコミュニティや、生涯学習の観点からボランティアも見出しに立てると良いのではないか。また仲間と始めるのか、一人で始めるのか、それぞれの始め方を書いておくのも良いのではないか。また生涯学習ガイドのなかでは「事業・講座等」という項目立てをしているが、事業とは、住民に向けて、ある施策を達成するための行政サービスのことで、講義形式だったりイベント形式だったり、年度によっても違うので、広報を確認する必要があるということも書いてあると良いのではないか。費用についても、目安ぐらいは載せる必要があるのではないか。

【委員】 目次があれば足りることかとも思うが、目的や要望関心に関して、適切なページを誘導できると良いのではないかと考えた。

【議長】 ガイドの構成や目次的なもの、それぞれの概要説明、ガイドの使い方と活用方法があると良いと考えた。分類ごとに使い方を記載しておくとも良いのではないか。

【委員】 項目の立て方は、今のままでも良いと感じた。後ろの方に調べ方を具体的に書いておくとも良いのではないか。例えば、これを学びたいときはこのページ、というイメージ。また、先程委員から意見を聞いて、良いアイデアだと感じた。確かに、生涯学習ガイドには堅苦しい印象がある。ふわっぴーによるQ&Aのようなものが載っていると、より見やすいと感じた。大人だけでなく、子どもも手に取る可能性を考えると、そういった配慮は必要だと感じた。

【委員】 土地勘のない人向けに、という意見を出した。土地勘のない人にも市内のことを紹介できたら良いと考えた。また、自分のやりたいことが分からない、しかしなにかやってみよう、という意欲のある人向けに、イエス・ノーチャートで案内できると良いのではないか。なにか始めたい、という人に活用してもらえないのではないか。

【議長】 確かに、遊び心があっても良いかもしれない。ガイドを手に取る人が全員明確な目的を持っているとは思わない方が良い。設問2と3について、各委員から出してもらった意見をまとめていきたい。これは取り入れたい、という意見はあるか。

【委員】 読者が分かっていることを前提に作らない、という方針は賛成。冊子の最初の2～3ページ目の印象は、それを読むか、読むのをやめるかの判断に関わってくるので、とても大事なページ。委員からお話しがあったように、最初の見開き1ページに、FAQのようなものが載っていたり、概観的なものが載っていたりすると良いのではないか。地図が載っていることも大切かもしれない。それを見ながら検索する人は多いのではないか。住所が文字で載っているだけだと、

慣れていない人はどこにある施設なのか分からない。自分の住んでいる場所と照らし合わせて、近くに公共施設があることに気づき、そこから活動に参加していくという人は多いのではないか。

【委員】 地図があることは大事だと感じた。確かに住所だけ載っていても、新しく来た人は分からない。まずは一目瞭然に公共施設の位置などが分かること。それから、その施設でどのような事業が展開されているという情報があると良いのではないか。住んでいる地域によっては知らない公共施設もあると思う。私はふじみ野交流センターをよく使うが、他の地域の方にふじみ野交流センターといっても、分からないという方は多い。こういった現状を考えると、視覚的に位置情報を示すというのは良い着眼点だと思う。

【議長】 他にこれは、という意見はあるか。いくつかの分類で分けた方が良いという意見が多かった。活動で探せるもの、目的で探せるものという意見が出ている。

【委員】 子育てしている方達の中で、子ども向けのイベントには参加したくないという人が一定数いる。ふじみ野市で行っている散歩の活動で、小さい子どもがいるが参加しても良いかと問い合わせがあった。うるさくなってしまうのではなど、気にされる方は多いようだ。子ども向けのコミュニティではなく、自分の興味のあるコミュニティに子どもを連れて参加したいという方は意外という。対象を限定してしまうと、興味がある人を取りこぼしてしまう。

【委員】 確かに、所謂ママ友とは違うつながりを求める人はいる。伝え方はとても大事で、こちらは歓迎していると伝わらないと、機会ロスにつながるかねず、もったいないと感じる。

【委員】 初めて子育てする方などは特に、子育て向けの情報は欲しいと感じるのではないか。子育てという分類は必要で、細かい内容の中で年齢不問や費用、時間帯など、備考欄で案内できれば良いのではないか。量的に増えてしまうという懸念点はあるが、そこまで書いてあると親切ではないか。

【委員】 広報に掲載されている、ホームページに掲載されている、ということが伝われば十分で、ガイドにはきっかけになるようなものが書かれているのが大事だと思う。

【委員】 インターネットを使えない人もいるということを考えると、冊子体においてもそれなりに情報量が必要ではないか。

【議長】 委員が仰っていたように、結局はどこかの施設を訪れることになるのだから、その後はウェブサイトへ誘導して使い方を教えるのも手かもしれない。そうすると情報量という制約は無くなる。

【委員】 これまでの意見を伺っていると、それぞれもっともだとは思いますが、冊子体で実現することは不可能ではないか。ある分類でリスト化してしまうと、紙媒体においてそれは固定される。そうすると、そのリストは最初から見るしかない。本の作りというのは、最初に並び方の説明として目次があって、親切な本はランダムアクセスができるように索引を後ろにつける。そうやって途中にアクセスできるように

している。ウェブ上であれば、色々な角度で並び変えたり、施設ごとに並べたりできるので、それはウェブの方に任せると考えた方が現実的ではないか。冊子体の場合、ランダムアクセスを可能にしようとするとも索引が膨大になってしまう。媒体の使い分けについて、割り切りも必要なのではないか。様々な角度で情報にアクセスできることが確かに理想ではあるが、どうやって冊子体で実現するかというのを考えると、あまり現実味がない。

【議長】 調べ方のパターンを何種類か載せようとする、同じ情報を2回、3回載せることになる。そうすると量が膨大になる。それはウェブ上に任せてしまうことにして、冊子の方はそこに導くためのツールとして、使い方ガイドとして割り切ってもいいのかもしれない。

【委員】 みなさん発想が豊かで、日頃から公民館等を活用されているからこそ、こういった発想が生まれてくるのだろうなと思った。いかに情報に触れやすくするか、ちょっとでも気持ちが向いたときに、すぐにアクセスできるようにするにはなど、そういう環境が整っていたらアクセスしやすいのだろうなと思った。

【委員】 委員のお話を伺っていて、紙媒体でも完結しうる情報量が必要だ、という意見と受け止めた。ウェブに誘導するための紙媒体でも良いかもしれないが、紙は紙で、ある程度の情報を具備していないといけないうのだろうなと思った。委員の意見で外観を整えるというものがあったが、提言においては、紙とウェブの使い分けについて、もう少し議論を深められると良いのではないか。

【委員】 確かに、紙媒体は紙媒体で完結していた方が良いと考える。ただ、アクセス方法も限られているし、載せられる情報量も限られるので、載せきれないものについては、ウェブに任せる。紙媒体のガイドについて、現行のものだと、外観については、使ってみようと思ってももらえるよう、改善の必要はあると思うが、内容については欲張りすぎなくても良いのではないか。確かに様々な分類で情報を掲載できれば便利ではあるが、複数個所に同じ情報が出てきて、かえって使いにくくなってしまっているのではないか。検索などの機能はウェブに任せるという割り切りで良いのではないか。

【委員】 紙とウェブとの使い分けについては、各委員に共感していただけたのではないか。問題は紙媒体にどこまで掲載するか。こちらについては、委員により意見が色々だと思う。

【議長】 出ているアイデアを全部取り込むのはウェブ上の話で、紙に最低限何を載せるかという話になるか。

【委員】 予算の都合もあると思うので、紙媒体のものをどこにどれだけ配布できるようにするのか、配布場所と配布数についても検討が必要。紙媒体に担わせる役割をどこまでとするか。

【委員】 どこに置くかという問題が、まさに何部発行するかという問題に関わってくる。予算にも関わってくるので、やはり全体的に考えないと実現性が低くなってしまふ。

- 【議 長】 紙媒体をはじめ方ガイドと位置付けるのか。どんな情報が何で調べられるか、そういった解説は入れるとして、情報の一覧は載せるべきか。使い方のガイドや施設の一覧などは載せるとして、その他の情報も載せるか。
- 【委 員】 最低限、現状掲載されている情報は必要なのではないか。
- 【事務局】 「育児・親子・青少年向け」、「一般向け」という分類は検討するとして、最低限現状の情報は載せておいて、なおかつウェブ上の情報へ誘導できるような工夫をするということか。
- 【委 員】 紙媒体における掲載情報の寿命を加味したうえで考えられると良いかもしれない。
- 【委 員】 各媒体、それぞれにメリット、デメリットがある。紙の媒体が持っている恒久性、ウェブが持っているスピード性。それぞれの性質を考慮して使い分けると良いのではないか。また、先程意見が出ていたが、分類してしまうことにより、興味があるにもかかわらず、その分類が自分に合わないために、問い合わせする前に諦めてしまう人が出てしまう。せっかく興味をもってくれたのにもったいないと感じる。作成者側で分類するのは確かに親切ではあるかもしれないが、逆に門戸を狭めてしまうのであれば、分類はせず、担当課で掲載するのはどうか。市役所の担当課ごとにまとめて載せれば、どういった内容なのかもイメージしやすいのではないか。
- 【事務局】 確かに紙媒体は印刷をするので寿命が長い。人材バンクで登録者一覧を作成しているが、印刷したものを長く使ってくださっている方が少なくない。細かい情報は変化しやすい。変わりにくい根幹的な情報のみを掲載すれば、長く使える一冊になるのではないか。
- 【委 員】 載せる情報が精査できれば、情報量が担保できるし、変更があった場合もウェブ上で対応できる。
- 【議 長】 団体やサークルなどは施設別で良いか。
- 【事務局】 今は施設別で掲載している。
- 【議 長】 担当課で分類した場合、詳細は担当課へ、と案内しても問題ないか。
- 【事務局】 問題ない。
- 【議 長】 細かな情報は担当課や各施設に、と案内できれば、紙媒体でも完結できる。
- 【委 員】 そうであれば、先程委員から意見があったが、確かに施設の一覧は最初に掲載した方が良い。施設そのものの情報はそう変わるものではない。あまりややこしい作りになると、作成する際の業務量も膨大になってしまう。現状のものを活かして、どう改善するか。そこを考えた方が良いのではないか。理想の姿を掲げるのは良いが、あまり現状のものとかげ離れると、実現が難しくなってしまうのではないか。
- 【議 長】 紙媒体はシンプルな方が良いのかもしれない。
- 【委 員】 今は毎年発行しているとのことだが、別に毎年作らなくてもいいのではないか。そうすれば、かけられる予算も多少違ってくるかもし

れない。ベーシックな情報にとどめ、寿命の長い冊子体にするのも良いのではないか。

【議長】 冊子の更新は2、3年とし、ウェブ上は随時とすると良いかもしれない。ウェブにおける細かいアイデアや分類方法はまた検討するとして、冊子体においては、先頭に施設の一覧と地図、それから使い方ガイドを載せ、他の情報については担当課別、施設別に掲載する、という意見でまとめたい。また、設問1について、遅れてご参加いただいた委員の意見を伺っておきたい。「ニーズを言語化した文章にしたい」とはどのような意味か。

【委員】 生涯学習ガイドを手にする方の中には、具体的に何がしたいのか、焦点が定まっていらない方もいらっしゃるのではないかな。そのような方がガイドを開いた時に、利用されている方の感想が載っていると、分かりやすいのではないかな。なんとなくガイドを開いた時には、自分がなにを求めているのか曖昧な状態。そこで、例えばこんなことができる、楽しい、などと一言でも書いてあって、それが、自分が求めていることと一致すれば、興味を持って読んでくれるのではないかな。生涯学習ガイドを開いた時に、私はどこに焦点を当てて読んだら良いのか分からなかった。あまり興味のない人が手に入ることはまずないだろうし、なんとなく興味があっても、読んでいる内に疲れてしまうのではないだろうか。自分だったらと考えると、利用者の声などが掲載されていれば、少しでも読んでみようと思えるのではないかなと思った。なにかを始めるにあたっては、人それぞれに色々な思いがあったと思う。しっかり取り組みたいと思っ始めた方もいれば、なんとなく参加してみたら楽しかった、という方もいる。そういう声が並んでいると、読者に対して何か訴えかけるものがあるのではないかな。

【議長】 確かに、利用者の声や活動の様子など、雰囲気イメージしてもらえるような仕掛けがあると良い。この、内容の枠についてももっとニーズを言語化した文章、というのは、もっとイメージしやすい、リアリティが感じられる、そういったイメージか。

【委員】 生の声に近いものが載っていると良いのではないかなと思った。まず利用者の声を知ってもらい、というのも良いのではないかな。冊子を手にする人の気持ちに寄り添うことができるのではないかな。

【議長】 時間軸についての意見も伺いたい。

【委員】 情報を掲載するにあたっては、時間軸も1つの方法ではないかなと考えた。渋沢栄一の資料館では、年齢が書いてあって、その下に、その年齢の時に何をやったか、書いてあると聞き、分かりやすいと思った。60歳になったから、なにかボランティア活動に取り組みたいという人と会ったことがある。年齢もなにかを始める軸になるのではないかな。

【議長】 確かに、イエス・ノーチャートのように、何歳の方にはこれがお勧め、と案内するのも1つの手段かもしれない。遊び心が入って、おもしろい。しっかりと目的をもって活動に参加する人もいるが、なん

となく参加する人もいて、後者の方が長続きすることもある。きっかけ作りとして、色々なおもしろい仕組みを作っても良いかもしれない。それでは設問4についてもご発表いただきたい。富士見市のホームページの中でリンクを貼った方が良いと思うページについて、意見を伺いたい。

【委員】 冊子体に盛り込める情報は限られるので、さらに詳しい情報を知りたい人にはウェブに誘導する。その入り口を必要な所に作るためにリンクを貼る必要があると考える。

【委員】 市のホームページのメニュー欄を見ると、いくつか分類されている。その中で「子育て・教育」や、「観る・楽しむ」、「窓口・施設案内」が生涯学習に関連したページだと思う。ここにリンクを貼ると良いのではないか。

【委員】 3つ意見を出した。1つ目、個々のイベントで案内ページがあると思う。そこにガイドへのリンクを貼ると良いのではないか。2つ目、図書館など市内の各施設のページにリンクを貼ったら良いのではないか。最後に、目に付くところに、と考えると、市ホームページのトップページが思い浮かぶ。しかし、トップページを見ていて、目に留まったから見てみよう、という人はいないと思う。安易なリンクはやめた方がいい。また本筋とは外れるが、市のホームページにおいて、生涯学習を「観る・楽しむ」の中に置いている。これは、富士見市が生涯学習を、イベントを中心に捉えているということになってしまっているのではないか。本当にその分類で良いのか、市として一度検討していただいた方が良いのではないか。

【議長】 トップページについての意見は、目的や意図の無い掲載はやめた方がいいという話だと理解した。またホームページのどこに掲載するか、悩ましい問題だと思う。「観る・楽しむ」のページには生涯学習の他に、富士見市PRサイトや市内の見どころ、催しイベントなどが掲載されているとのことだが、確かにその並びを聞くとそこで良いのか疑問ではある。

【委員】 「子育て・教育」からも生涯学習のページに辿り着ける。複数個所に配置されているようだ。

【委員】 探したのに見つからない、と言われるより、確かに色々なところにあった方がいい。

【委員】 私は予定が空いている日や外に出る日にイベントカレンダーを見る。それから行けそうなら行く、というスタンス。イベントカレンダーを見る人はアクティブな人。イベントカレンダーとリンクさせられると良いのではないか。また施設や内容など、自分に合った切り口で探すことができ、紙媒体ではできない探し方ができる。

【委員】 何かを始めるにあたっては必須になるので、イベントカレンダーや施設概要が書いてあるページ、また公共施設予約システムなどはリンクがあった方が良いと思う。また社会福祉協議会のホームページ上に、富士見市ボランティアセンターというページがある。これもリンクを貼った方がいい。

【委員】 他とリンクさせるというより、冊子体の中にある情報をもっと分かりやすくする、というイメージを持っている。他とリンクさせるということは考えていなかった。

【議長】 設問5以降については、次回の会議で検討していきたい。

3 その他

・各会議への参加報告

【委員】 入間地区社会教育協議会より、社会教育委員部会で開催した10月の研修会について、マルチホールに2グループ配置したので、声が聞き取りづらかったなど、一部会場に関わる意見もあったが、それ以外はおおむね好評だった。グループディスカッションについては、テーマ等あまり細かく決めなかったが、それが良かったという方もいた。また2月4日に生涯学習フォーラムがキラリふじみのメインホールで開催される。ご都合の合う方はぜひご参加いただきたい。

・生涯学習課より

【事務局】 新年賀詞交歓会について案内